

AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会 / (公財) 日本自然保護協会 / 林野庁関東森林管理局

赤谷の森だより

2023.3.1

vol. 52



赤谷の森でわかったこと

赤谷の森が抱える問題

ニホンジカの低密度管理とその利用

みなかみ町立新治小学校五年一組

林 優心太・原澤 美空・河合 伽粹

トピックス

● 地域と繋がる赤谷プロジェクト

登山ガイド 片野 直子

● イヌワシの命を守る子どもたち

地域協議会 石坂 克之

(いぎもの村のカモシカ 撮影: 赤谷森林ふれあい推進センター)

AKAYA no MORI

ミニ写真館

今回のテーマ

「赤谷の森の湿地で見られる春の妖精」 (写真: 赤谷森林ふれあい推進センター)



タチツボスミレ(4月下旬)



カタクリ(4月下旬)



ショウジョウバカマ(4月下旬)



カタクリ(4月下旬)



キクザキイチゲ(4月下旬)

赤谷の森で わかったこと

赤谷の森が抱える問題 ニホンジカの低密度管理とその利用

私たちは、まず「新治の魅力は何だろう?」と思い、クラスみんなで考えました。そこで、新治の魅力は「温泉が多いこと/自然が豊かなこと/観光業が盛んなこと」という3つが出ました。その中でも私たちは新治の自然について調べる事にしました。そこで自然豊かな森、赤谷の森を見つけました。ここでは、赤谷プロジェクトと言って、自然を守る活動を実施していました。赤谷プロジェクトに関わる皆さんに力を借り、赤谷の森遠足を実施しました。

センサーカメラを設置したりして、動物の行動を観察しました。動物は人間の通る道などにも出現したり(写真1)、又タ場という体を洗う場所にも出現したり(写真2)、自分たちのくらしに合った行動をしています。

湧き水が9℃でした。そして「蜂の巣岩」という特徴的な岩があることを知りました。赤谷の森遠足を経て、様々な動物や植物が生息、繁殖していることが分かりました。それには、地形班が調べたような水温の違いや多様な環境の存在が大変大きく関わっていると思います。そして赤谷プロジェクトの取り組みは、生物多様性の保全に大きく寄与しているとも思います。

しかし今、ニホンジカの増加によって生物多様性が損なわれようとしています。ニホンジカが植物を食べることにより、樹木や植物が失われます。すると山の保水能力が無くなり、土が川に流れ、濁っていきます。つまり、生活用水としての水が汚染されると言うことです。同時に他の動物の食料やすみかの減少にもつながっていきます。このことからニホンジカの管理をしていくことが必要だと分かりました。赤谷プロジェクトでは、ニホンジカの低密度管理を行っています。頭数管理ではなく、順応的管理の考え方を基に管理を行っています。しかしニホンジカの頭数を減らすに当たって、捕らえた個体を活用できていないという課題があります。そこで私たちは処分されるしかなかったニホンジカの、有効な活用方法を考えました。



写真1: センサーカメラで撮影された林道を歩くニホンジカ



写真2: 又タ場



写真3: 蜂の巣岩

まず、ニホンジカを部位に分けて考えると肉・皮・角に分けることができます。それぞれにおいて活用方法を考えてみました。現在群馬県は鹿肉の出荷制限がかかっています。鹿肉はジャーキーなどの活用事例がありますが、それ故、まだ時間ばかりですが、加工するかたちでの活用ができると思います。また皮についてはラグマットなどにして活用できます。しかし加工が難しく、自分達だけではできないことが難点です。角については、それそのものをインテリアとして飾ることもできますし、加工してアクセサリースタンドにすることもできます。これら以外にも活用方法は考えられると思うので、有効活用のために豊かに発想していくことが大切だと思いました。

生物多様性の保全とニホンジカの低密度管理、そして自然と人間の共生、これらは今後も取り組まなければならぬ課題です。問題解決にむけ、自分達にできることをこれからも行っていきます。

みなかみ町立新治小学校

5年1組

はやし 林 優心太
はら 原 澤 美空
かわい 河合 美伽

地域と繋がる

赤谷プロジェクト

登山ガイド

かたの 片野
なほこ 直子さん



自己紹介と普段取り組んでいること(仕事含む)を教えてください。

登山ガイドとして、谷川連峰や尾瀬を中心に、お客様が安全に楽しく山を登るサポートをしています。新治地区で生まれ育ち、大学進学を機に地元を離れましたが、2018年にUターンして現在の仕事を始めました。現在は赤谷プロジェクト地域協議会の会員でもあります。

赤谷プロジェクト関係者と知り合った経緯を教えてください。

妹がたくみの里で無農薬の酒米を作る取り組みに参加しており、その繋がりです。自然保護協会の方や地域協議会の方と知り合いました。

今後、赤谷プロジェクト関係者と行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

みなかみ町には、アウトドアアクティビティのガイドを生業とする人がたくさん住み、働いています。ニホンジカの問題をはじめとした生態系の変化は、ガイドの仕事場である山や川の環境を大きく左右するものですが、赤谷プロジェクトとガイド業界は、これまであまり交流がなかったのではと感じています。自然を使いながら回復させていく方法を、一緒に考えていけたら良いと思います。

赤谷プロジェクトへ一言!(何でもOK!)

プロジェクトの全貌を簡潔に紹介できる冊子やウェブサイトがあると有難いです。



写真
左:一ノ倉沢をガイド
右:植物を解説
(撮影:佐川 航大)

イヌワシの命を守る子どもたち..

いしざか かつ ゆき
地域協議会 石坂 克之



写真1. ミズナラの苗を植樹

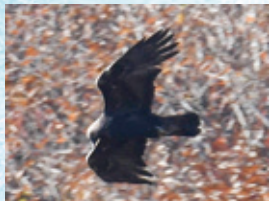


写真2. イヌワシ雄(撮影:上田大志)



写真3. 真下さん、見城さん、竹田さん

イヌワシ研究の権威、山崎亨氏は「このままでは必ずニホンイヌワシは絶滅する。」と明言しています。豊かな生態系の指標生物である「アンブレラ種・イヌワシ」の消滅は赤谷の森の貴重な生物多様性の消失を意味します。シカも激増するでしょう。「未来のイヌワシの命」を守るため「イヌワシの森づくり」を実践したり、5年間の研究調査にチャレンジした子供達を紹介します。

新治小学校の小池拓翔さん、みなかみ中学校のベネット大巖さん、石飛柚さん、沼田高校の田村大翔さん、クレイグ翔音さん、石飛樹さんは昨年と一昨年に日本自然保護協会の出島誠一さんの案内で、イヌワシの狩り場となっている伐採地にミズナラの苗を植えました(写真1)。元来のドングリの森に復元するためです。苗を植える前に野イチゴなどの除伐を行って見晴らしがよくなったら、翌日そのエリアの100メートル上空にイヌワシが現れ、2分間獲物を探す行動が見られました(写真2)。草刈り作業に効果があった可能性があります。伐採地では、アカネズミなどが貯食して発芽した苗も発見されました。みなかみ中学3年の見城光祐さん、竹田しほさん、星野真優さん、真下心花さん、片桐静流さんは「イヌワシの森」を貯食によって増やすアカネズミの研究を5年間継続して、日本で最も歴史と権威のある日本学生科学賞で見事「優秀賞」となりました。「イヌワシ観察会」では実物のイヌワシの飛行を目撃しました(写真3)。校舎の裏に長さ14メートル、直径20センチの「金網トンネル実験飼育装置」を作りアカネズミの貯食を調べました(写真4)。片桐静流さんは「透明つつ」実験によりアカネズミの学習能力の高さをヤマガラと比較しました。見城光祐さんは「弓矢発射装置(アーモンドトリガー)」で貯食の瞬間や学習の様子をセンサーカメラで詳細に調べ、5人が独自に貯食目印の図形を考案してアカネズミの記憶力・図形識別能力の特異性を明らかにしました(写真5)。竹田しほさんは5年前に種から発芽させて植えたコナラの苗が大きくなったので背比べしています(写真6)。未来を担う子供達がイヌワシの絶滅を防ぐため強靱に実践しています。私たちも未来のイヌワシの命を守るため社会実装したいです。



写真4. 片桐さん、星野さん



写真5. 十字を破くアカネズミ

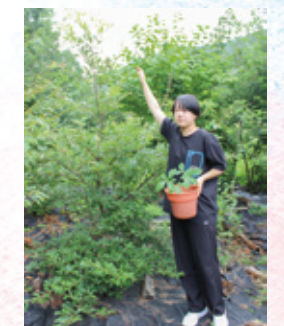


写真6. 竹田さんの植えたコナラ



色々な活動をしているよ!

赤谷プロジェクトの活動

トピックス



R4.9.15-16

第2回植生管理ワーキンググループ

第6次計画において複層伐が予定されている林分の視察を実施し、今後の伐採方法についての課題や方向性を議論しました。



R4.10.20

群馬県立農林大学校校外学習

農林大学校2年生の校外学習の受け入れを行い、植生復元試験やイヌワシの狩り場創出試験の取組について紹介しました。



R4.10.22

赤谷の森自然散策(秋)

紅葉したブナやミズナラを観察しながら旧三国街道を散策したほか、猿ヶ京に古くから伝わる民話と紙芝居を鑑賞しました。



R4.10.23

ごったくまつり

沼田市で開催されたごったくまつりに参加し、「ヒノキの球果ストラップ」と「森のかけらストラップ」のクラブブースを出展しました。



R4.10.31-11.1

自然環境モニタリング会議

各ワーキンググループの進捗状況の報告と赤谷プロジェクト20周年記念事業に向けた方針について議論しました。



R4.11.5

11月赤谷の日「イヌワシ試験地保全活動」

イヌワシの狩り場創出試験地において、植生復元を目的とした除草作業といきもの村で育てたミズナラ苗の植栽を行いました。



R4.11.19

炭焼き体験会

炭焼きの講師をお呼びして、伏せ焼きと炭焼き窯を使った2つの方法による炭焼き体験のイベントを開催しました。



R4.12.9

群馬県立尾瀬高等学校校外学習

尾瀬高校1年生の校外学習の受け入れを行い、低密度下でのシカ捕獲試験や植生復元試験の取組について紹介しました。



R4.12.20

第2回哺乳類ワーキンググループ

哺乳類のモニタリング調査結果の報告とニホンジカの低密度管理における捕獲方法などについて議論しました。

赤谷プロジェクト、って?

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万 ha (10km四方)の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受け入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせください。

※トピックスの詳細は

赤谷森林ふれあい推進センター

検索



赤谷プロジェクトサポーター募集!

(たくさんの笑顔がまっています (^o^)/)



赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

■お問合せ先

(公財)日本自然保護協会：萩原

赤谷プロジェクトについて詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

林野庁関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センター

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※「森のおもちゃの家」内

理事 本多 結

メールアドレス y-honda@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4101

プロジェクト担当 萩原 正朗

メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 上野 文紀

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html
メールアドレス ks_akaya_postmaster@maff.go.jp